



おびひろ女性活躍推進フォーラム

2015年11月23日(月・祝)とかちプラザを会場に女性活躍をテーマに基調講演、分科会(子育てと仕事、起業・創業、キャリアデザイン、女性に対する暴力)などが開催され、約100人の方が参加されました。

講演
基調

「女性の活躍が社会を変える」



フリージャーナリストの小宮山洋子さんを迎え、「女性の活躍が社会を変える」をテーマに基調講演が行われました。

「女性活躍で男性も生きやすい社会へ」

「しなやかでしたか」な女性の力を生かさない組織はこれから生き残れないということを私はずっと言ってきました。女性が一人の人間として力を発揮するということは、男性の負担がそれだけある意味軽くなるということともあるわけです。今、男性中心の社会であるため、男の人が弱音を吐けない、休むことができない状況もあります。女性が活躍するということは決して男の人が隅に追いやられるということではなくて、男性もよりよく生きられる社会になるんだということを考えてほしいと思っています。



「女性活躍の現状は」

女性が力を発揮でき、活躍できる日本の社会の仕組みがきちんと変わってきているのかどうか。男女共同参画社会基本法が1999年に成立しましたが、2015年のジェンダーギャップ指数※は世

講師

小宮山 洋子さん (こみやまようこ)



元NHK解説委員・アナウンサー。1998年参議院議員に。2003年から衆議院議員に。厚生労働大臣、少子化担当大臣等を歴任。2013年1月政界を引退。これまでの経験を生かし、社会保障(子育て、超少子高齢社会への対応等)、労働問題(特に女性)、男女共同参画をテーマに各地で講演。

界で142カ国中101位です。何が足を引っ張っているかといえば、政治分野で女性の議員数。次に職場です。女性の管理職の割合が低く、職場での男女共同参画が進んでいない。男女の賃金格差も問題です。それから、女性が働く中で非正規雇用が半数を超えています。また、共働き世帯で見て、6歳未満児のいる家庭の1日あたりの家事・育児時間が夫は30分、妻は4時間15分と国際比較でも非常に少なくなっています。女性が本当に過労死しちゃうんです。男の人を巻き込んでいかなければ、これでは世の中は変えられないと思います。



「女性が活躍するためには」

女性活躍推進法が成立しましたが、企業が女性活躍にどのように取り組んでいるかを「見える化」しなければならぬ。どこに格差があるのかわかるようにする。女性が活躍している企業では、女性だけのチームを作るとか、女性のロールモデルとなる人に話してもらおうような機会を作るとか、あるいは女性のための研修をするとか、いろいろなことをしていますが、やはりトップの意識というのがものすごく大きい。中間管理職も含めて、男性意識をどう変えていくかというところが非常に大きいのかと思います。



また、国全体として今の長時間労働を何とかしないと、これは一企業の努力ではできないということを多くの企業が言っています。同じ価値の仕事をしたら、1時間当たり同じ報酬があるということをしなないと、駄目なんだと思うんです。
一足飛びにこの世の中は変わらないので、一つ一つ変えることで、女性が活躍する、男性も人間らしく生きられる社会に近づけていくことが必要だと思います。

※ジェンダーギャップ指数：世界経済フォーラムが、各国内の男女間の格差を数値化しランク付けしたものである。